

# 十勝川中流部川づくりWS(第2回)

## 十勝川中流部の特徴と河道の変遷

平成22年10月29日

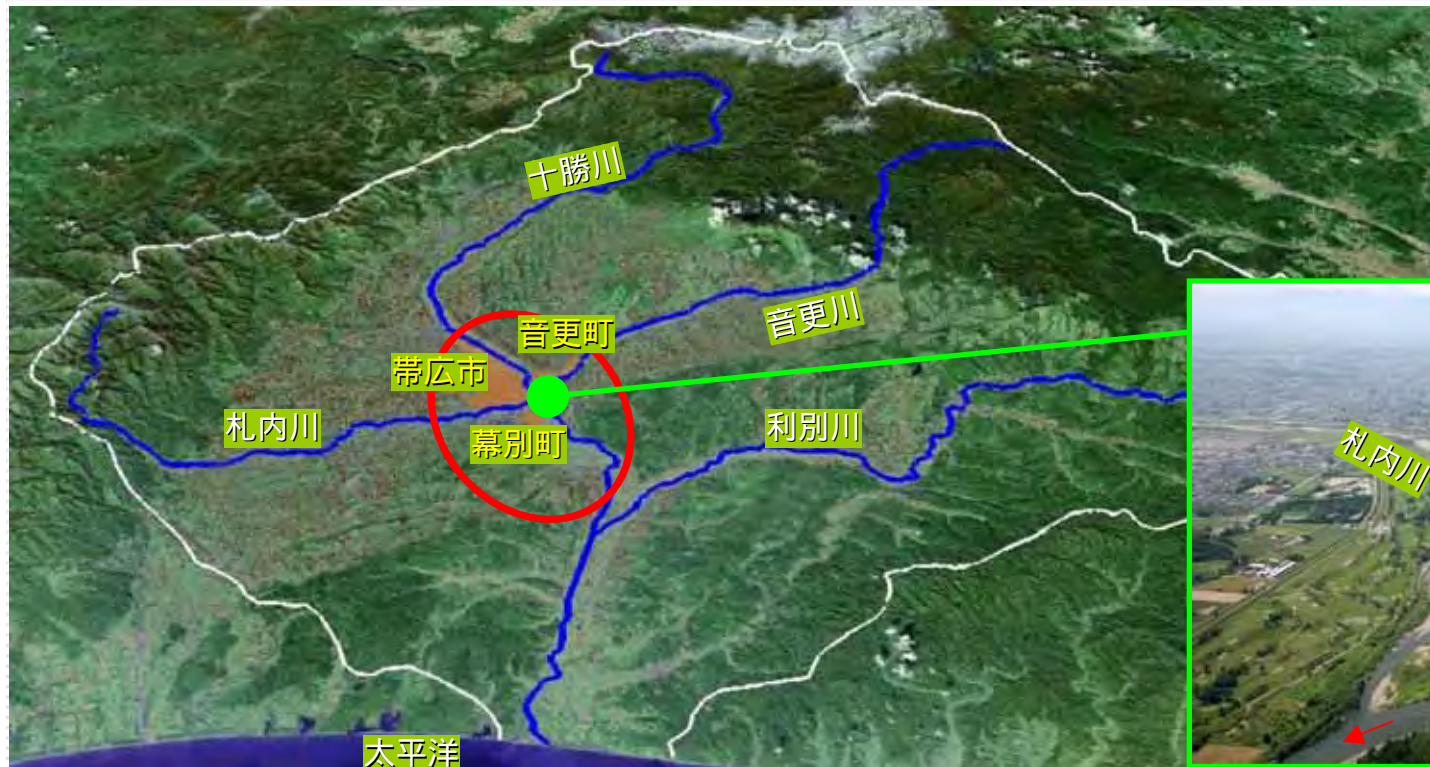
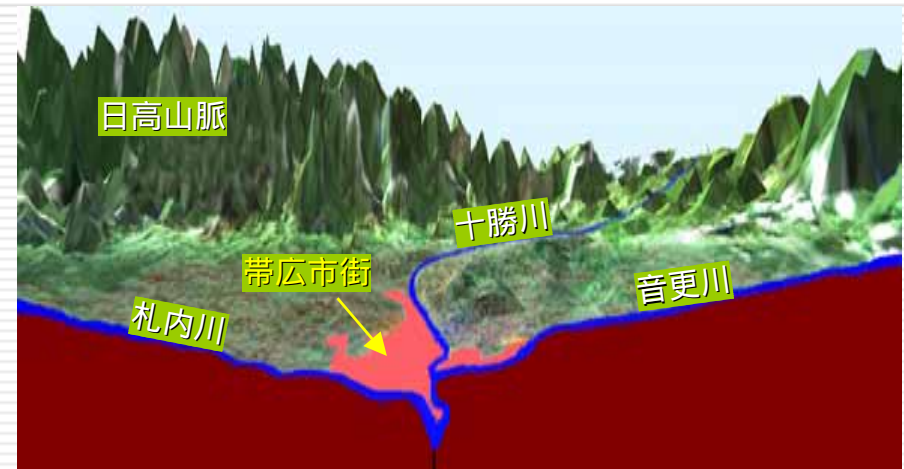
北海道開発局 帯広開発建設部

---

# 十勝川中流部の特徴

十勝川は、その源を大雪山系十勝岳（標高2,077m）に発し、山間渓谷を縫流して十勝平野に入る。

その後、佐幌川、芽室川、美生川、然別川等多くの支派流を合わせ、十勝川中流部の帯広周辺で、急流河川の札内川・音更川等の主要支川が集中して合流する。



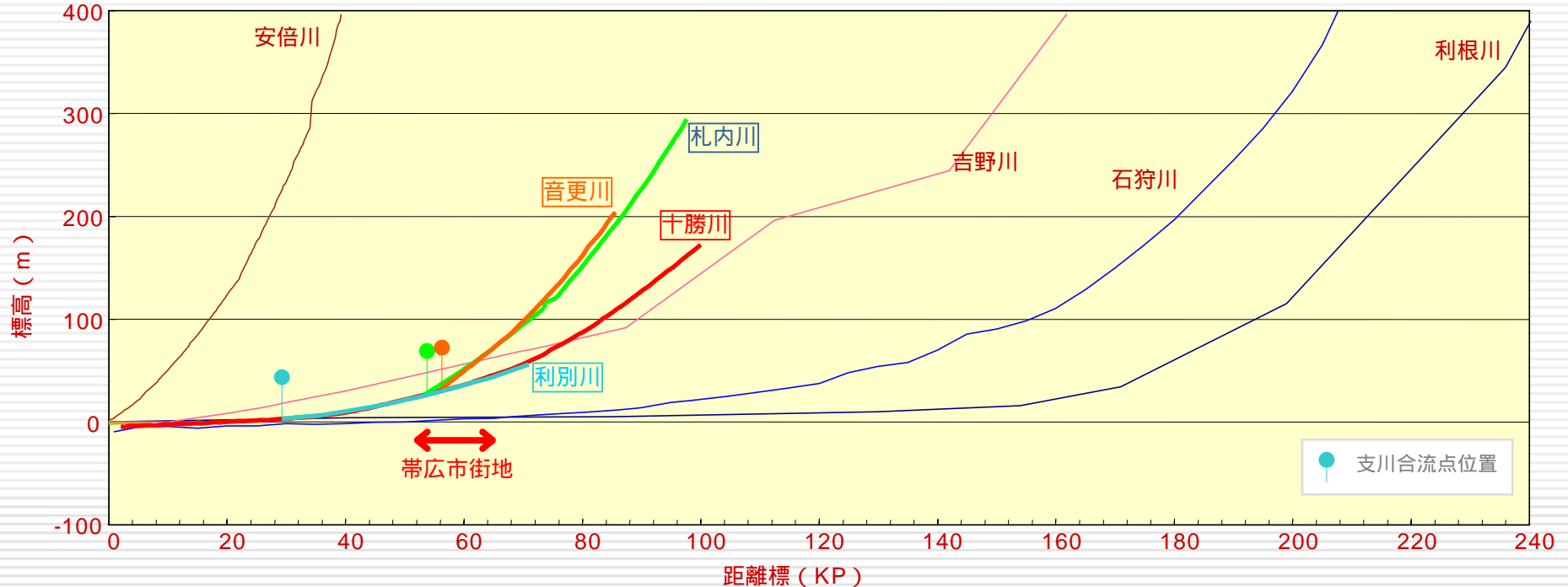
# 十勝川中流部の特徴

## ～ 河道特性 ～

十勝川は、日本全国の河川と比較すると、流域面積で6位（全道2位）の大きさ、幹川流路延長で17位（全道3位）の長さである。

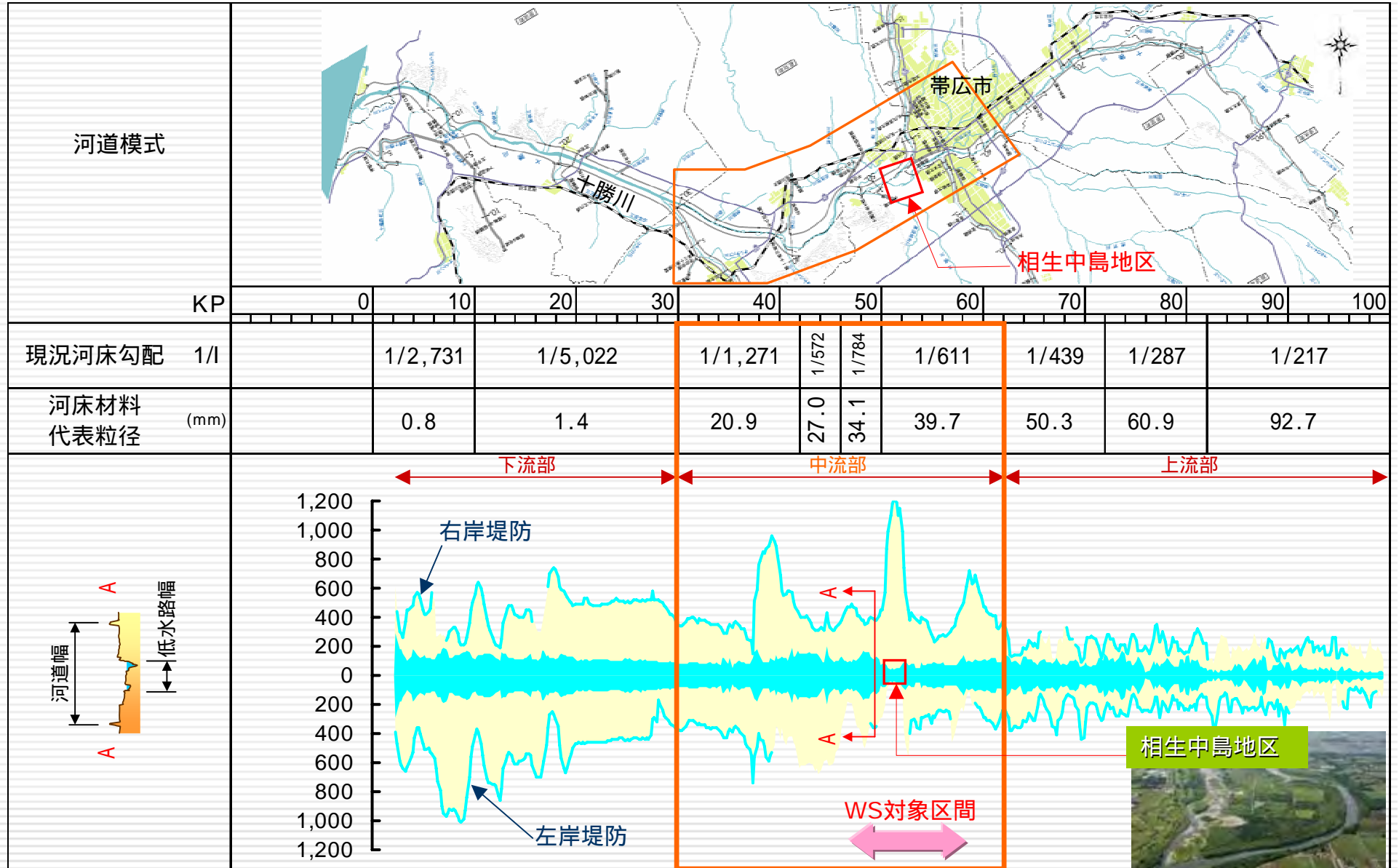
十勝川中流部の帯広周辺で、急流河川の札内川・音更川等の主要支川が集中して合流する。

- 十勝川の河床勾配 : 約1/200 ~ 1/5,000
- 札内川の河床勾配 : 約1/100 ~ 1/250
- 音更川の河床勾配 : 約1/150 ~ 1/250
- 利別川の河床勾配 : 約1/500 ~ 1/1,400

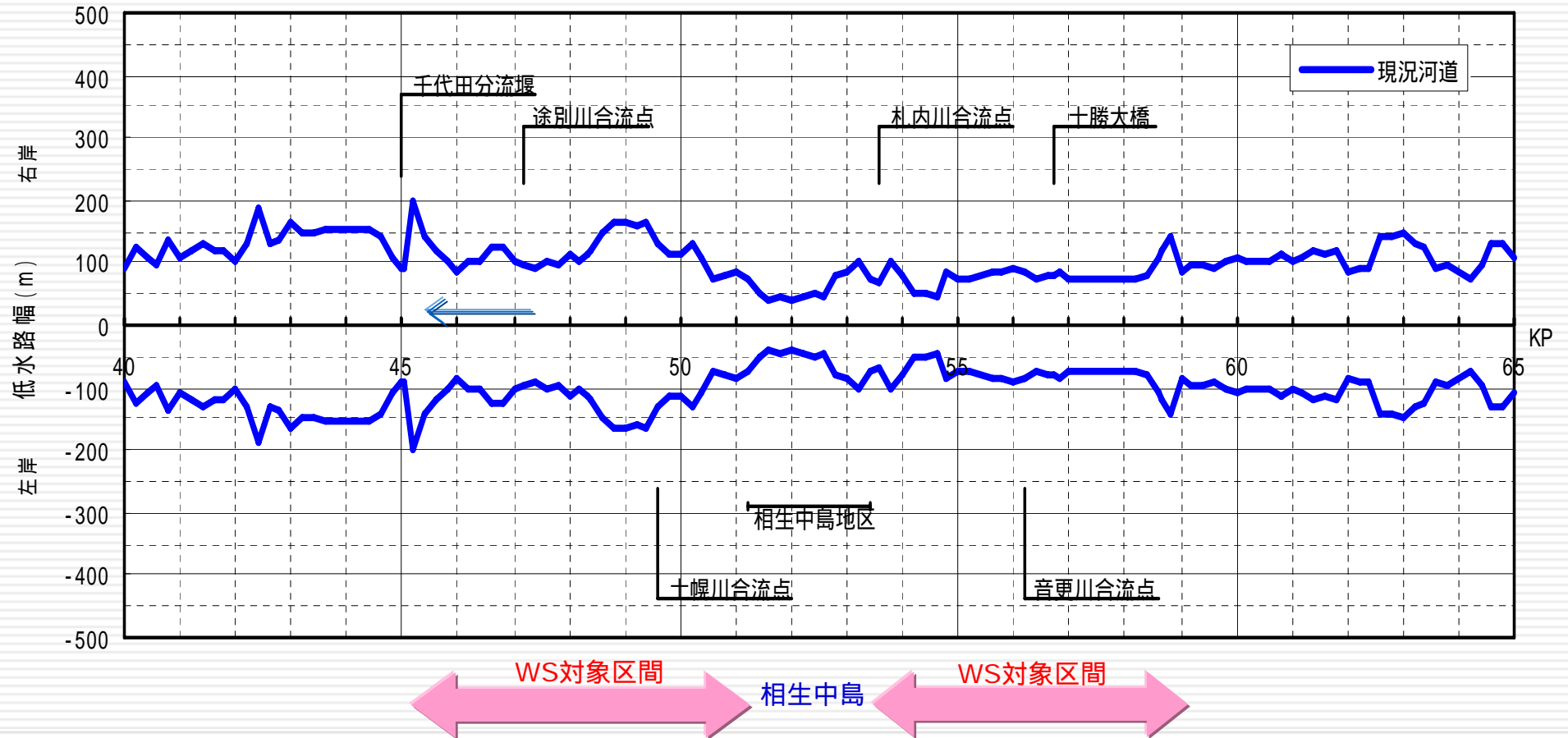


# 十勝川中流部の特徴

堤間は平均800～900m、低水路幅は平均200mであり、河床勾配は1/600～1/1,200程度である。また、相生中島地区など、低水路幅が著しく狭い箇所がある。



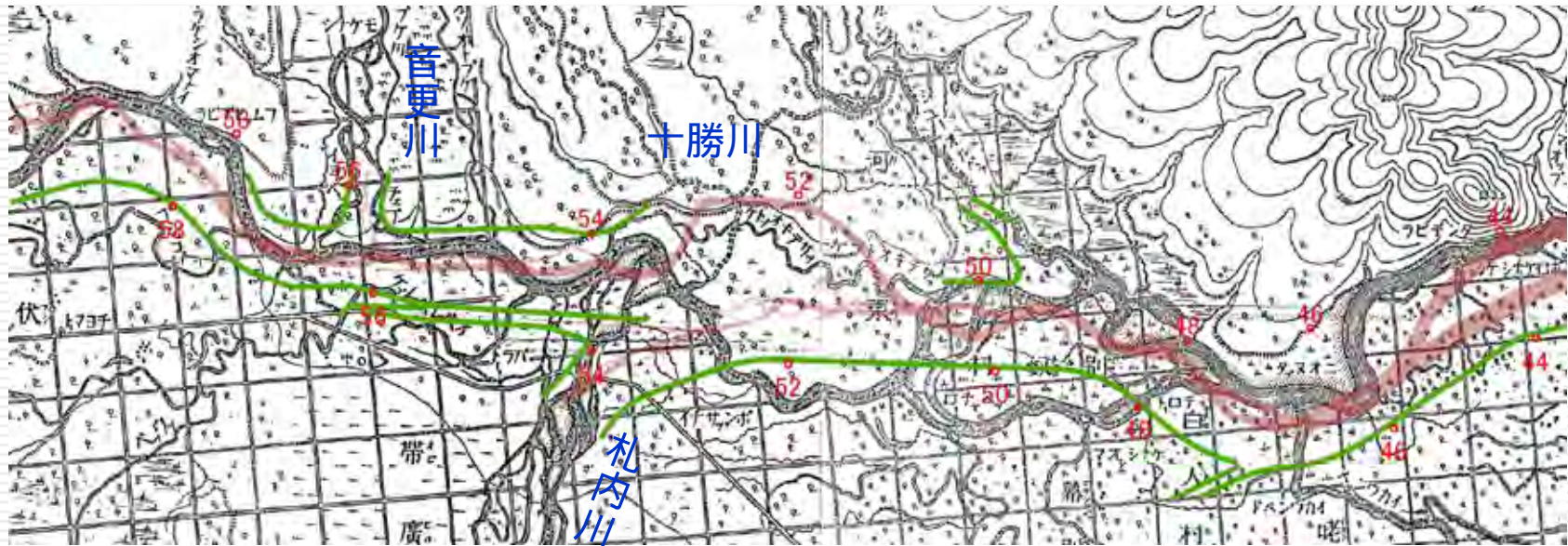
# 十勝川中流部の特徴



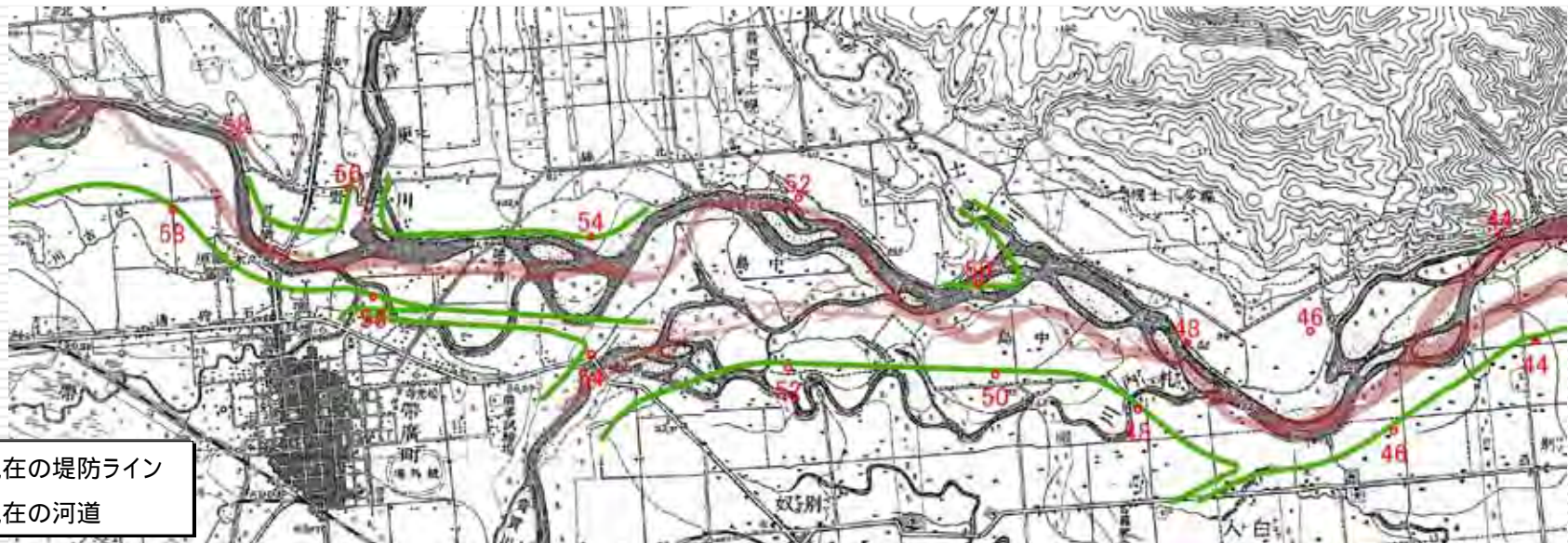
# 十勝川中流部の変遷（地形図より） M29とT11

人の手がほとんど入っていない明治時代の十勝川は、自然の営みにより、大きく蛇行を繰り返していた。  
（現在の幕別町札内地区や十勝エコロジープーク箇所、十勝川が流れている）  
大正時代に入ると、帯広市内に市街地が形成されてきている。（まだ、堤防等は作られていない）

M29



T11

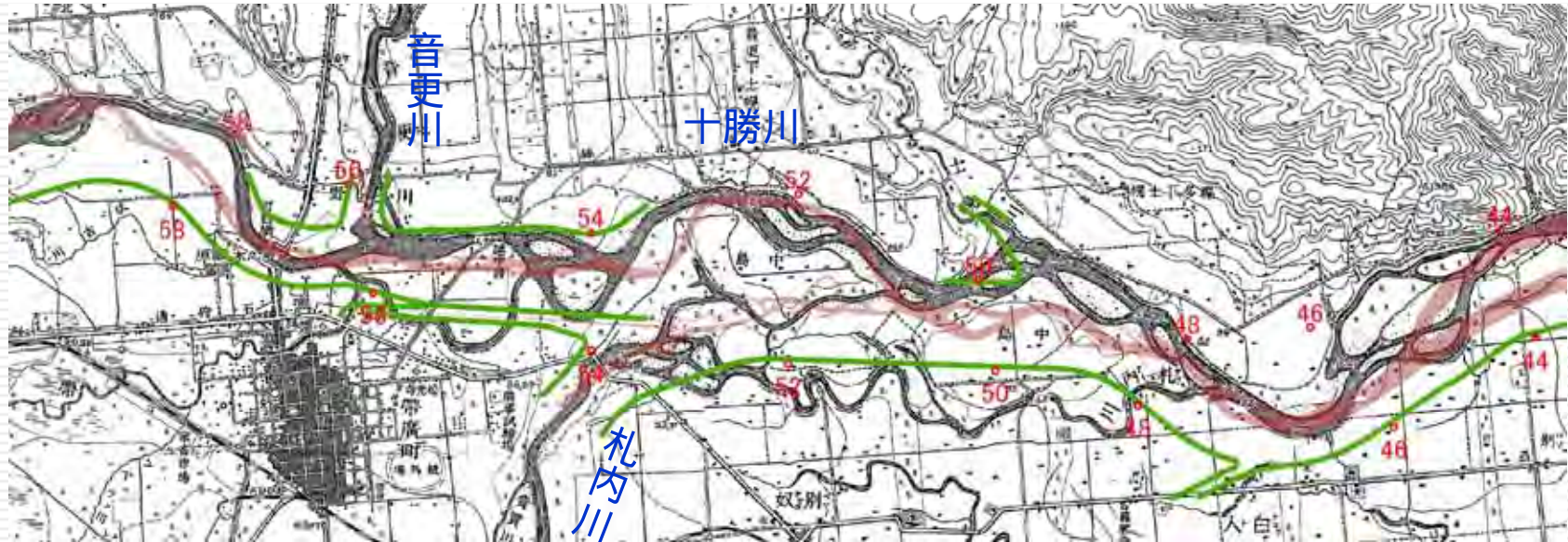


— 現在の堤防ライン  
— 現在の河道

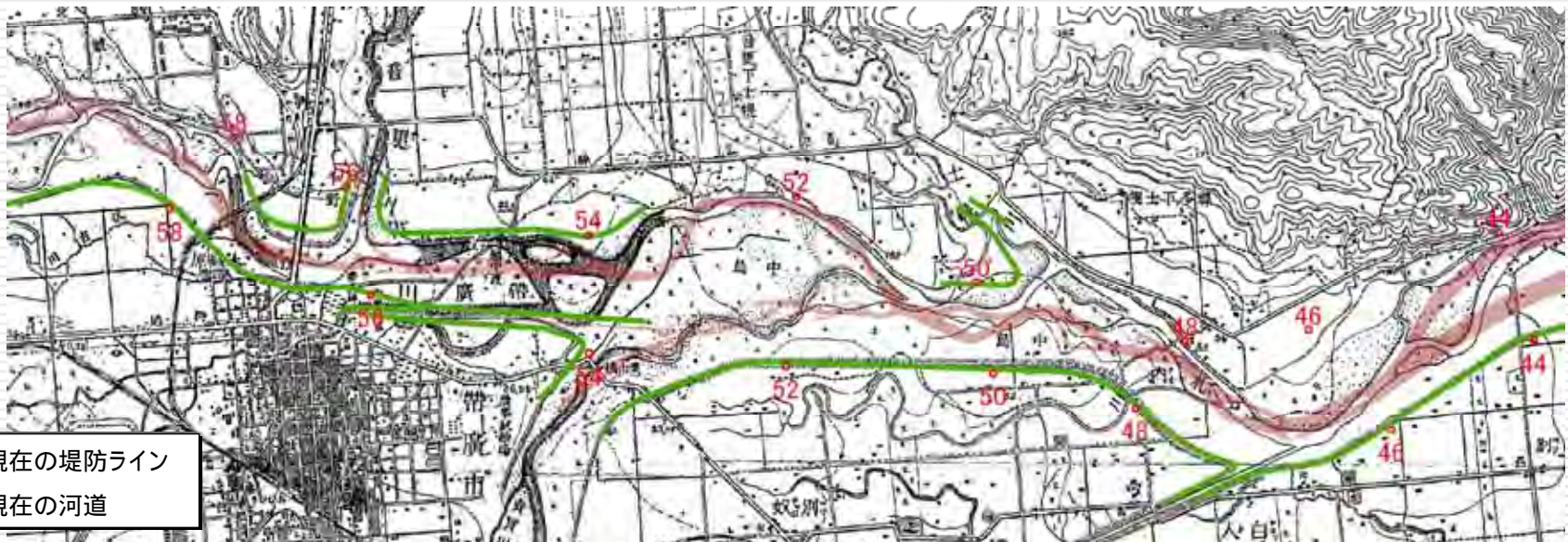
# 十勝川中流部の変遷（地形図より） T11とS21

十勝川の河川改修は、大正12年にスタート。昭和の初め頃から、市街地のある右岸側の築堤工事が進められた。その他、帯広川や途別川の河道切替（S3～S6）が行われた。  
（十勝川の河道平面形は、概ね現在の河道形状に近い状況になっている）

T11



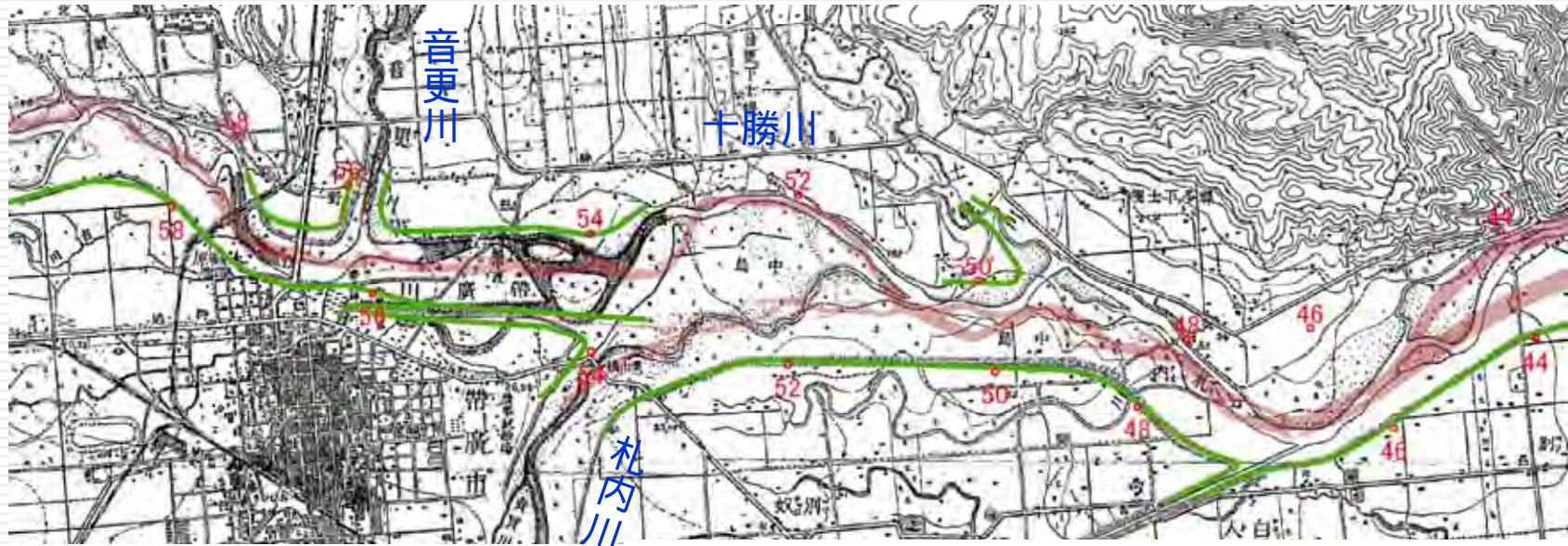
S21



# 十勝川中流部の変遷（地形図より） S21とH9

引き続き堤防の整備が進められ、昭和40年代には概ね連続した堤防が整備された。また、河道の整備（河岸保護工など）が行われ、高水敷には公園などが整備された。その後、音更町木野地区引堤事業や千代田新水路事業が行われ、現在に至る。

S21



H9



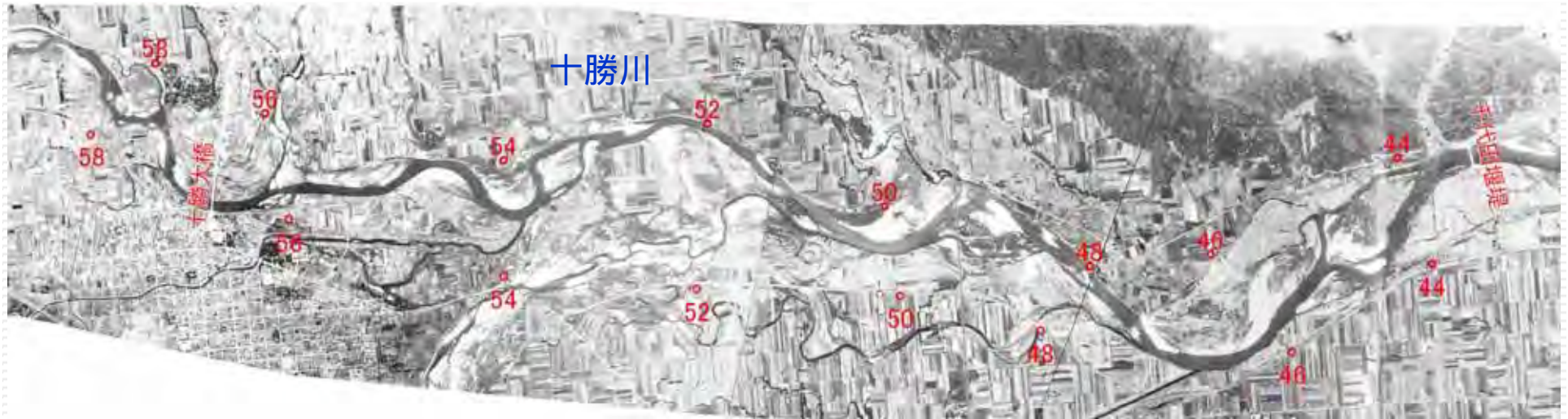
社会的要請を背景として、治水対策が進められ、市街地や食料供給地としての十勝の発展に大きく寄与してきた。その一方で、自由な川の流れを抑制し、本来の川らしさが徐々に失われてきている面もある。



# 十勝川中流部の河道の変遷（航空写真より） S22とS42

昭和20～40年代の十勝川中流部は、大きく蛇行を繰り返しているほか、河床勾配が1/600～1/700程度と比較的急流で土砂移動も多いことから、礫河原が形成されていた。  
また、洪水等による攪乱の影響などもあって、河道内樹木が繁茂している範囲も現況より少ない。

S22



S42



# 十勝川中流部の河道の変遷（航空写真より） S53とH22

昭和50年頃から、市街地周辺を中心に河岸保護工などの河道整備が行われ、高水敷には市町村により公園などが整備されてきた。

また、近年、河道内樹木の繁茂している範囲も広がってきている。

S53



H22



# 昭和53年頃と現在の河道の状況の比較

S53(十勝大橋周辺)



H22



S53(相生中島より上流)



S56年8月洪水



H22



# 昭和53年頃と現在の河道の状況の比較

S53(十勝中央大橋周辺)



H20



S53(十勝エコロジーパーク周辺)



S56年8月洪水



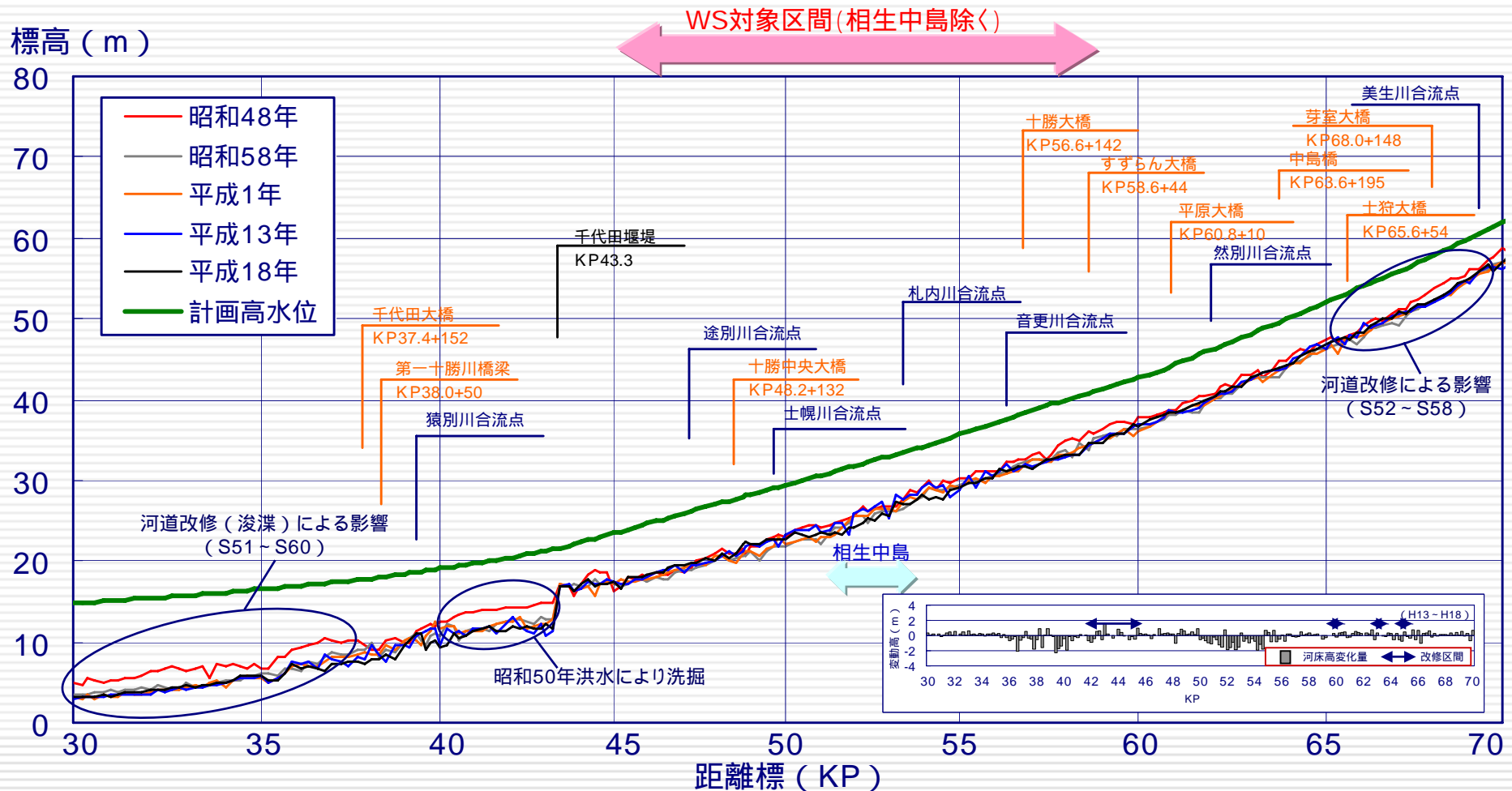
H19



# 十勝川中流部の河道の縦断形の変化

茂岩地点において平成15年8月に6,700m<sup>3</sup>/sが流下したが、平成13年～平成18年の間に札内川合流点（相生中島地区）付近を除き、大きな河床高の変化は見られない。

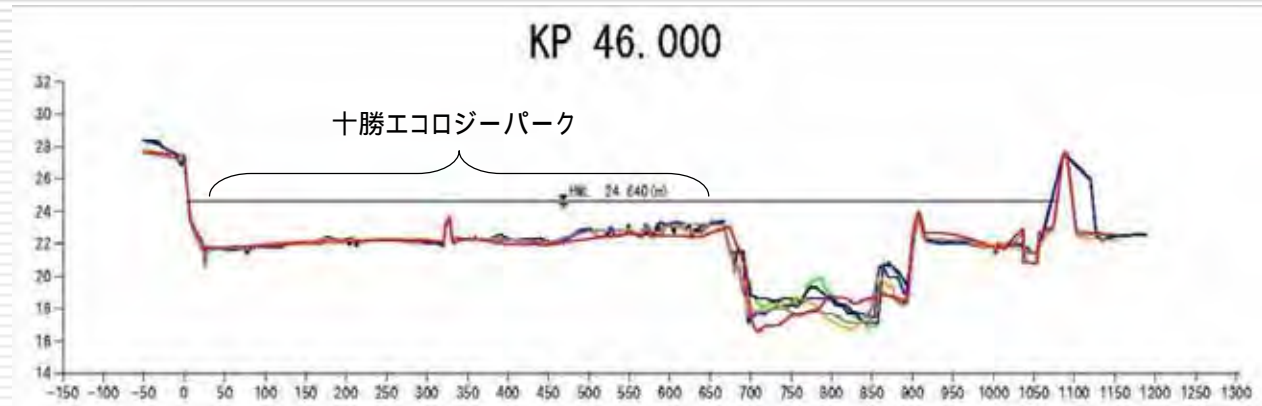
十勝川中流部では、千代田大橋より下流においては浚渫、上流においては河道改修を実施しており、改変直後には河床高の低下が見られるものの、その他の区間においては近年大きな河床高の変化は見られない。その中でも、WS対象区間は洗掘と堆積が繰り返し生じており、その変動の幅も比較的大きい。



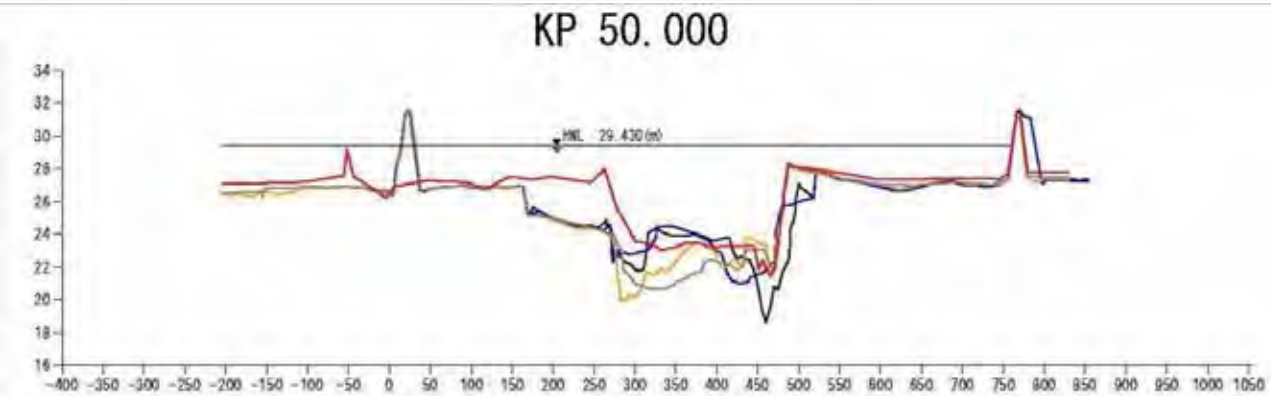
十勝川中流部の平均河床高縦断図

# 十勝川中流部の河道の横断形の変化

十勝エコロジープーク  
周辺

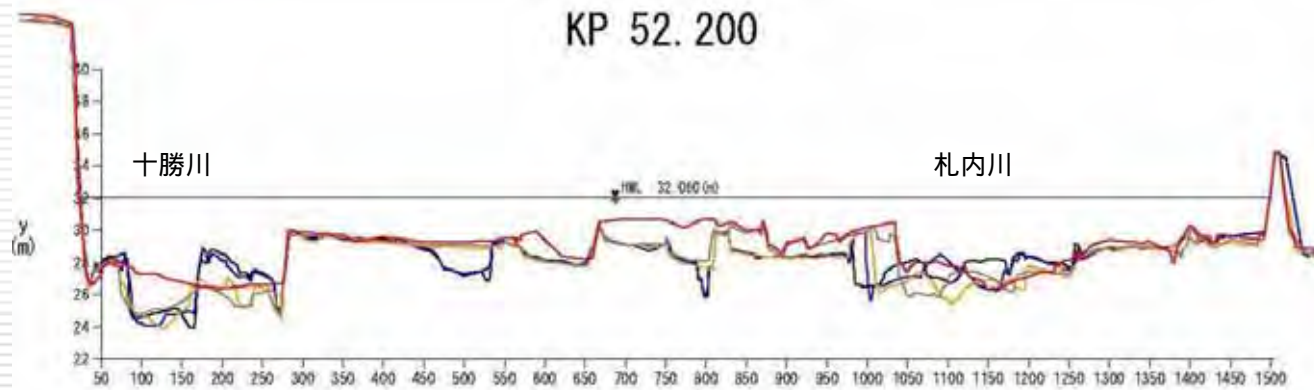


土幌川合流点より上流



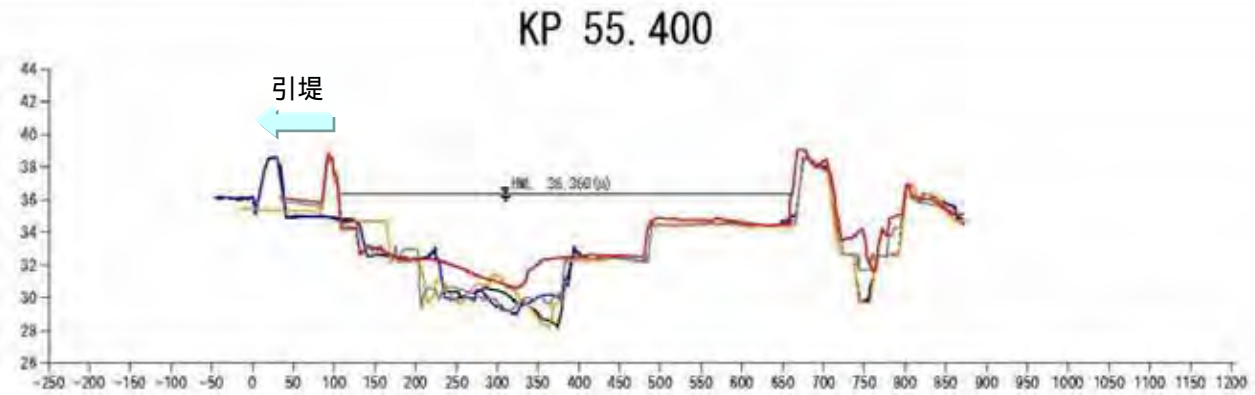
相生中島地区

- S 4 8
- S 5 8
- H 1
- H 1 3
- H 1 8

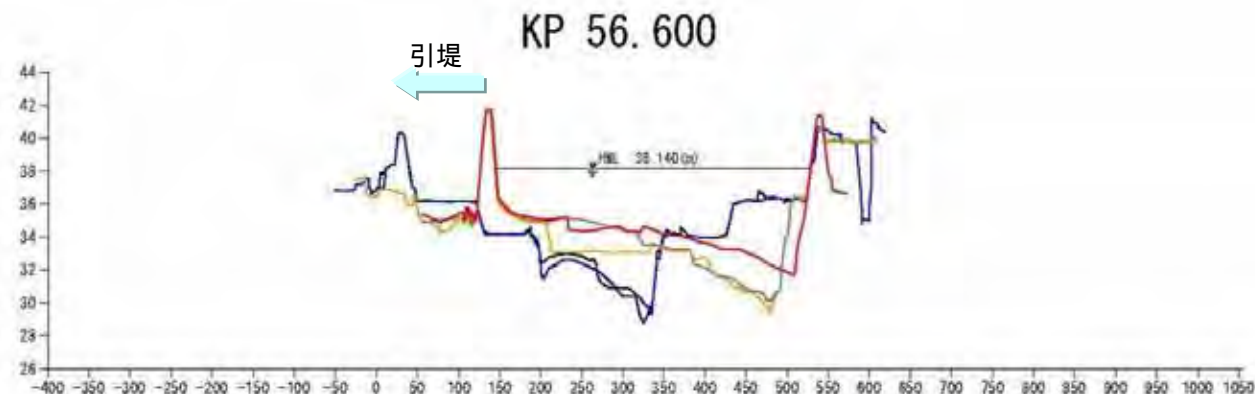


# 十勝川中流部の河道の横断形の変化

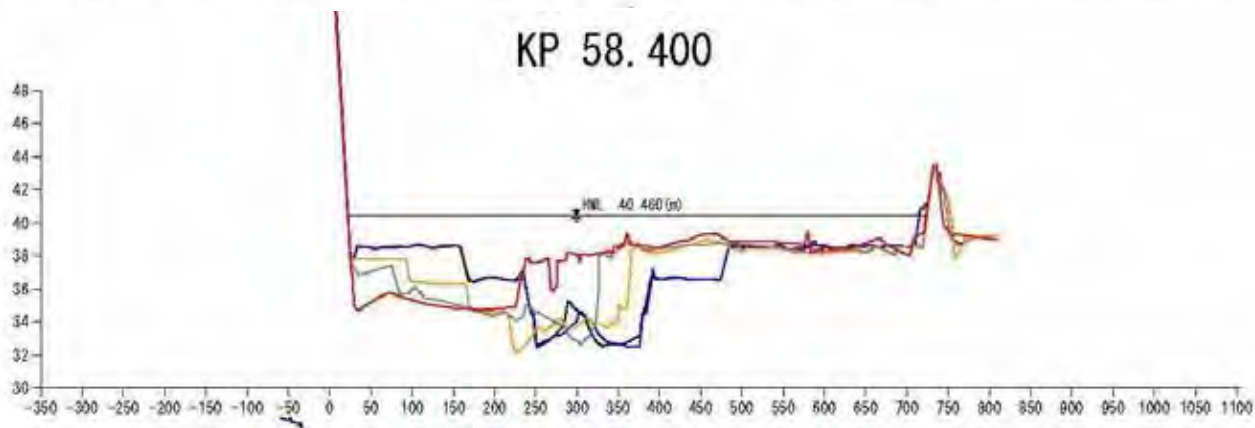
音更川合流点より下流



十勝大橋付近



鈴蘭大橋より下流



- S 4 8
- S 5 8
- H 1
- H 1 3
- H 1 8

# ( 前回の質問 ) 河川整備方針と河川整備計画の関係

